

## 令和3年度第1回食の安全・安心推進審議会

日時：令和3年6月8日（火）14:00～16:30

場所：高知県保健衛生総合庁舎 1階会議室

出席：佐々木委員、中澤委員、久委員、松岡委員、小島委員、水田委員、安藤委員、  
田中委員、谷内委員、渡邊委員、宮崎委員、山本委員、三谷委員

議題：次第参照

---

### 1 開会

・委員17名中13名の出席で審議会成立。

### 2 健康政策部長挨拶（副部長 代読）

### 3 議事

（1）令和2年度 of 取組報告並びに本年度の計画について

・事務局より資料1及び2-1、担当課より資料2-2について説明。

### ◇審議

#### 委員

県民生活課の消費生活オンライン講座(P7)は申し込みをすればパソコンやスマートフォンで見られるのか。後日の動画配信はあるか。

#### 県民生活課

昨年度は県内居住者であれば申込可能で、zoom配信により自宅で受講いただけるものであった。インターネットが利用できない環境の方は、県立消費生活センターでの受講が可能。今年度も同様の形で実施する予定。

#### 委員

P14 直販所の安心係の設置(P14)が143店舗中122店舗ということで、残り21店舗は今年度設置されるのか。また、講習を受講すれば必ず安心係になれるのか。

#### 農産物マーケティング戦略課

直販所の中には花だけの取扱い店や、2～3ヶ月の期間しか営業を行わない店などあり、100%の設置は難しい。未設置の店舗のうちこれらに該当しない店舗には出ていただけるよう努める。

昨年度までは講習受講のみで安心係になれたが、講習を受けたっきりにならないよう、今年度は資料を使って答えを導く小試験のようなものを追加で実施する予定。

## 委員

HACCP 導入型基準の施設数(P2)について、今年6月から HACCP が制度化されたなかで令和3年度の目標が320施設というのは少なくはないか。

## 薬務衛生課

順調に認証施設数は増えているが、全国、世界の動きにあわせて制度を見直したことで、これまでよりも中身のレベルが高く、難しいものになった。今後も施設数を増やすよりは、既存の施設が新しい認証基準に対応できるようにレベルを上げていただくという方向で考えている。

## 委員

畜産振興課のワクチン接種実績(P15)について、計画よりも実績はるかに多いが、全頭に予防接種を行っているということになるか。

## 畜産振興課

計画は全頭ということで策定している。全頭に複数回打っているため、実績が多い。

## 委員

ウナギ、カンパチの医薬品の残留検査(P18)について、残留はあるのか。許容範囲内なのか。

## 漁業振興課

外部機関に委託し実施しているが、医薬品は検出されていない。

## 委員

IPM 技術の普及率(P10)や有機 JAS 認証(P11)について、当初の計画に対して実績が上がっていないが、どういう状況か。計画策定時と状況が変わってきたのか。

## 環境農業推進課

虫害 IPM については、柑橘類は年1回しか収穫できないため害虫防除に失敗した場合にカバーができないことや、効果的な薬剤・殺虫剤が開発されたこともあり、進んでいないのが現状。キュウリの害虫はウィルス病を媒介するので、進まない。病害 IPM についても色々努力をされながら技術開発を進めており、導入面積で見ると伸び悩んでいるが、決して IPM 技術が下火になったというわけではないと考えている。

有機 JAS 認証については、毎年15万円程度かかることから、1度販路を確保したら有機 JAS を取らないという方もおり、伸び悩んでいる面はある。

## 委員

環境保全型農業に適した面積規模や認証を取りやすい農家を絞るなど、ターゲットを絞れるといいのではないかと思う。

## 環境農業推進課

現在は有機 JAS 認定事業者と交付金の対象者を拾っており、確実にやっている方々の数値であるが、このほかにも有機農業に取り組んでいる農家があるのではないかと思っている。有機の取組面積をどう拾っていくか検討し、県の補助金等も使っていただけるよう、事業者の掘り起こしをしていきたい。

#### 委員

取組のメリットが見える形でデータを示していただけるといいかと思うので、よろしく願います。

#### 委員

GAP 認証取得経営体が 32 となっているが、その内訳は。輸出を検討しているか。

#### 環境農業推進課

団体認証が 14 件、残りが個別認証。個人・法人・農業高校など。系統出荷の農家の方はまだ少なく、基本的には個別出荷の方が取引先の要件の関係もあり取得している状況。品目はショウガ、メロン、トマト、ミニトマト、ゆず、米、ブロッコリー等多岐にわたる。メインのナスやキュウリは共同出荷のため、その他の品目が特に多い。

輸出を目標にしている方は、今把握しているなかではない。輸出を目標に GAP 認証を取ろうとすると国の補助金が使えが、高知県内にはそれほど大きな農家はいないので、県単独の補助金を用意している。

#### 委員

薬務衛生課の県版 HACCP(P4)と、地産地消・外商課(P8)に記載されている施設はかぶっているか。

#### 地産地消・外商課

かぶっているところはある。認証自体が製品に対する認証なので、同じ施設で色々な製品を作っており、複数の認証をお持ちのケースもある。

#### 委員

薬務衛生課と地産地消・外商課の方向性をそろえて、事業者が迷わないようにしてほしい。また、外商の審査会に通った等のメリットのアピール、成果物を見せるということをされると良いと思うので、お願いしたい。

#### 委員

有機 JAS に取り組まれているのは、どちらかというに移住してきたりなどして新たに農業を始めている方が多いと感じる。親世代からやってきて、親と一緒に仕事をしていると、家族の力関係等もあり新しい取り組みが難しい面もある。JA 部会に所属し、データをもらったり新しい技術の勉強はしているが、新しい取組をしている方と一緒に席で勉強をすることがなく、そのような方達が頑張っていることやいい取組を知る機会がないため、別次元のように感じる部分もある。

## 環境農業推進課の回答

勉強会等は実施しているが、JAの方々には参加しづらいのかもしれない。個人個人で生産されている方が興味をもって参加されていることが多いと思う。技術的な交流会の開催や、例えば販路のアドバイスをし合うことができるか等、検討してみる。

### 委員

施設園芸の移住者の方たちのノウハウやコミュニケーションのルートがある。県で交流のチャンスをアイデアとして考えて頂けるとありがたい。

### 委員

カンピロバクターの食中毒が増えているように思う。(P3)

### 薬務衛生課

カンピロバクターは鶏肉が持っていることが多い。目新しいことをして目を引きたい居酒屋等で、レアに近い形で提供するということが後を絶たない。加熱不十分な鶏肉の提供により、食中毒が起きる。新鮮な鶏肉でも駄目である。これまでも保健所を通じてずっと啓発をしているが、今後も指導や注意喚起に努めていく。

### 委員

低温調理がブームになっている。加熱不足は危ない。

### 委員

アニサキスの食中毒件数が増えてきている。今年はカツオがよく捕れるが、アニサキス食中毒の発生が少なくて良かった。

### 薬務衛生課

最近の傾向としては、カツオも出なくはないがそれよりもアジやサバに多く、注意が必要である。アジやサバは、切り身が薄いのが、アニサキスの虫体がまるまって入っている。アニサキスについても、引き続き、指導を行っていく。

### 委員

飲食店営業者に対してデリバリー・テイクアウト食品の食中毒予防の注意喚起(P3)とあるが、どのような方法で何軒くらいに行ったか。

### 薬務衛生課

各保健所でチラシを用いて事業者には注意喚起をした。講習会とか個別相談においでた方々に配付した。内容としては基本的なところで、温度や時間の管理、速やかに提供して速やかに食べていただくということ。

### 委員

テイクアウトでGoToEat食事券が使えるということもあり、心配なところがある。

#### 委員

高知の食べ物いっぱい入っちゅう日(P20)はどのくらいの頻度で行っているか。

#### 保健体育課

6月の「カレーの日」、11月の「おだしの日」とは別に毎月1回取り組んでいる。

#### 委員

地元産の食材を食べる全国平均が20%に対し、50%なので、素晴らしい。

#### 委員

メジカの魚価向上のために鮮度処理方法を替える(P19)とあるが、どのようなことをしているのか？ヒスタミンを増やさないためには温度管理が大切では。

#### 水産流通課

船には冷水機が設置されているが、血抜きをし、シートに包んで、クーラーボックスに入れて保管する。ヒスタミン生成と脱血は直接関係はないが、脱血することで、鮮度落ちのスピードを緩やかに保ち、生食の普及増加を狙っている。検査は工業技術センターにお願いしている。

#### 委員

消費生活オンライン講座(P7)は我が大学も連携しているが、広報はどのように行っているか。

#### 県民生活課

県のホームページに掲載している。

## 4 報告

(1) 令和2年度分科会の報告について

### 【分科会1】

- ・農産物マーケティング戦略課から資料3-1について説明。

### ◇質疑・意見等

#### 委員

高知県の商品をもっとブランド化され販売促進されることを願う。

#### 委員

イタドリ等を売り出してはどうか。

#### 農産物マーケティング戦略課

高知市の旧鏡村ではイタドリ茶の生産が盛んで、年間10トン栽培していたと記憶している。県外には既に商品化した物の出荷もしている。

#### 委員

イタドリの研究をしているが、様々な効果があることがわかり、現在、特許の申請中である。

#### 委員

スギナ、ドクダミ、桑の葉などの、野草茶が高知は盛んである。そういったお茶のデータは県で持っていないか。

#### 農産物マーケティング戦略課

データの把握はしていないが、探してみる。

### 【分科会 2】

- ・薬務衛生課から資料 3 - 2 について説明。

#### ◇質疑・意見等

#### 委員

6月1日から HACCP 制度化が完全施行となったが、周知ができていないというのは、全国の問題である。行政職員の数は限られているので、指導員等とも連携して進めていくことが必要。HACCP に関する対応の代表的なところは薬務衛生課と地産地商・外商課、高知市の生活食品課になるかと思うが、他の課でも関わりのある相手方は必ず HACCP が必要になると思うので、全体で考えていただき、担当課につないでいただくことで、行政全体で見ているという形になると思うので、柔軟な対応をよろしくお願いしたい。

#### (2) 第4次高知県食の安全・安心推進計画策定スケジュールについて

- ・薬務衛生課より資料 4 について説明し、スケジュールについて委員及び関係課了承。

### 5 閉会